

平成 28 年 1 月 17 日

臨床 50 年の AKB 48

1、まえおき

経穴とは、灸を点じ、鍼を打つべき身体の箇所、全身に数百ヶ所あり、経絡の要所に当たり、病気の診断と治療の対象点とされる。と広辞苑（新村出編、岩波書店、1974 年 9 月）に出ております。それでは、特効穴と関連したトリガーポイント、奇穴、阿是穴、鼻鍼、顔面鍼、頭鍼、耳鍼、手鍼、高麗鍼、足鍼、藤田六郎氏の圧痛点、圧診点、丘疹点、小野寺氏の圧診点、原志免太郎氏の長寿穴、中谷義雄氏の良導点、石川太力雄氏の皮電点、平田反応帯、ヘッド帯、高木健太郎氏の圧反射などがある。手技とかねての特効穴には、井上恵理、深谷伊三郎、野口晴哉、山本敏男、長野潔 藤本蓮風、郡山七二、上原小児鍼灸科院などの鍼灸師がおり、その他は、日本と中国の鍼灸医学書などにある。

要旨

特効穴は、誰が使っても、すぐに効果を表すものをいうのですが、今回は、自分で体験した経穴で、速効性がある経穴を述べてみたいと思う。郄門、神門（心筋梗塞）逆子穴（腰部左右 2 点）、治痒、肩髃、曲池、合谷、血海、百虫窩、三陰交、蠡溝、（アトピー性皮膚炎、肺虚常症）百会、四神聰（不眠症、認知症、うつ病）リュウマチの散針（腎虚常症）、小学生の夜尿症（示指の基節中節関節と中節末節関節の中央と太敦、中極）、突発性難聴、耳鳴り、小児慢性中耳炎（耳門、聴宮、聴会）、複視、緑内障、白内障、視野狭窄症、近視（太陽、攢竹、魚腰、四白、瞳子髎、太衝、太谿、陽白、曲池、合谷、上天柱、風池、天柱、百会）顎関節症（聴会、反対側の天枢）糖尿病（左側の意舎、胃倉、盲門、地機、公孫）腎虚証の本治法（復溜、陰谷、経渠、尺沢）肺虚証の本治法（太淵、太白、商丘、三陰交）

キーワード、奇穴、阿是穴、アトピー性皮膚炎、リュウマチ

(a) 特効穴とは、何か

この経穴は、誰が使っても一つの症状において効果が著明に現れることを言うのである。症状と経穴と手技が合えば、即、効果を表して病的症状が取れるのである。治療する前に、診察 すなわち、望

診、聞診、問診、脈診、腹診、舌診、背候診、切経（撮診）を丁寧にするべきである。名家灸選聚録の中より引用すれば、「名人には、禁穴なし、禁穴に奇効を奏することもある。」と述べてあり、これから特効穴は、あらゆる方面からまとめてみたいと思います。

(b) トリガーポイントとは何か

トリガーポイント (trigger point) は、1983年アメリカの Travell と Simons 氏により紹介されて筋肉の緊張により筋膜に痛みが関連したところに現れて西洋医学では筋肉反射のきっかけ点を治療点として使っており、このトリガーポイントは、運動機能の低下を知ることのできるものである。この筋膜は身体のすべて組織にかかわり、ホルモン、白血球などの免疫組織で骨に付着しており、各組織を仕切る壁として働いているし、皮膚と同じく再生を繰り返しております。運動不足により筋膜は硬化して筋肉を収縮させて骨格の歪を起こす原因になるので神経、リンパ、血管を圧迫し、老廃物をためて代謝性の悪い身体を作るのである。そのために、治療点として使い、免疫性を上げる治療点として使うのである。

(c) 奇穴、阿是穴とは、何か

奇穴は、正穴の別穴とも言えるし、正穴と組み合わせたものや奇穴どうしを組み合わせたものを言う時と、原志免太郎氏の腰部八点灸、沢田健、代田文誌などの個人的な阿是穴も個人的な取穴であり、特効穴として発展したものである。中国の原書や成書にも奇穴など出ておりますが、私たち臨床家には、すべて必要性があるかは、疑問である。

(d) 鼻鍼、顔面鍼、耳鍼、頭鍼、手鍼、高麗鍼、足鍼とは、何か

この鼻鍼、顔面鍼、耳鍼、頭鍼、手鍼（高麗鍼）、足鍼、の中で、特効穴としては、子供の夜尿症に示指の中節末節関節間中央に取る。

(一点) 示指の基節中節関節間の中央に取る (二点) 太敦 (三点) 中極 (四点) に取る。

鼻鍼には、アレルギー性鼻炎、スギ花粉症、副鼻腔炎、蓄膿症などには、迎香、印堂、攢竹、その他全身に治るツボがありますので、顔面鍼として利用することです。頭鍼は、百会を中心に上下左右の

四神聰穴に留鍼（10分間）すると不眠症が治るし、うつ病、途中覚醒、双極性障害、認知症などに効果がある。

アトピー性皮膚炎の治療穴ですが、肺虚常症体質であり、肩こりがひどく神経質で胃腸の調子がいつも悪く、便秘と下痢の繰り返しである。アレルギー性鼻炎、のどの調子が悪い、ぜんそく、偏頭痛などの症状があり、脈診では、瀦脈であり、治療穴は、全体療法（本治法）として肺経、脾経を強くしていく治療点は、太淵、孔最、商丘、公孫、三陰交の経穴に優しく鍼をして、その後、かゆみ止めの治療点に肩髃、治痒、曲池、合谷、血海、百虫窩、三陰交、蠡溝などを取るのである。後は、銅板針で患部と肩背部を撫でて終わりとなります。

そこで、アレルギーについて、ベルリン大学のコッホのもとに留学していた北里柴三郎氏は、1890年に免疫機能の本体である抗体（抗毒素）を発見する。北里とコッホの弟子であるベーリングと協力して破傷風菌やジフテリア菌に対する血清療法を確立したのである。この二つの病原菌は、人間の体の中に毒素を放出して病気となっており、馬に少量づつの毒素を注射してみると、毒素を中和する働きのある物質が現れたのが抗毒素（抗体）であり、外部から侵入した異物（抗原）と戦う主力であるのが抗体である。

(e) 藤田六郎氏の圧痛点、圧診点、丘疹点とは何か
内臓疾患の反応が、経穴部に丘疹、紅斑として現れるものである。鍼の響きがリンパ流の速度に近いことから、発生した活動電流が組織液に影響を与え、その変化が知覚神経に感知されると考えたのであり、筋運動主因性体液路系の学説と言えるのである。

(f) 小野寺直助氏の圧診点と原志免太郎氏の長寿穴

小野寺直助氏（1883年—1968年）は、医師であり、消化器病の診断に、臀部の圧痛点を採用して有名となる。原志免太郎氏（1882年—1991年）は足の三里と腰部の8点灸が慢性病に聞くと言われた医師である。中でも、8点灸は、第5腰椎の両側の横列の4点と第2と第4点とを取り、仙骨部の第2と第4の仙骨孔に二列に並行して取るのである。別の説明では、臍の真裏の高さより5cm下が、第5腰椎で左右の両側でAB線が出来て尾骨のところをCとして三角形を作り、AB線上に4点を取り、あとの4点は、図のごとくに取穴するのである。

(g) 中谷義雄氏の良導点と石川太刀雄氏の皮電点

中谷義雄氏は疾患による皮膚の通電抵抗の低下点を良導点として21Vの電圧（直流）のノイロメーターを使用して検知するのである。反応良導点は、12Vに落として身体の異常や刺激に反応して出現する場所を探して反応良導点としたのである。

石川太刀雄氏は疾患による皮膚の通電抵抗の減弱点を皮電計で検知したのである。皮電点とは、内臓体壁反射の一つとして石川らが命名したのであり、内臓に病変があると、そこからの刺激は内臓求心性知覚二重支配則により、その一つは交感神経を介して臓器所属の脊髄分節に、他の一つは副交感神経を介して反射性に末梢器官に投影される。体表は脊髄分節に対応する交換神経性皮膚分節デルマトームで、そこに装置された体壁、筋肉、汗腺、血管、知覚神経終末、その他の反射の投影をする効果器官となる。これによって内臓疾患に原因するコリ、冷え、汗、痛み、やつれ、などの反射症状があるのである。

(h) 平田反応点とヘッド氏帯と高木健太郎氏の圧反射

平田氏は体幹を十二分節に区分して内臓が悪いところに、反応が出るという説であり、ヘッド氏帯は、病変部位が脊髄節の皮膚に近く過敏として表れる内臓皮膚反射である。高木健太郎氏は、圧を加えることにより発汗反射が起こり、治療点の部位と考えたのである。

(i) 経絡的治療（本治法と標治法）と対症療法

これは柳谷素霊、井上恵理、岡部素道の先生らにより提唱された経絡的治療は、診察（望、聞、問、切）して経絡の働きが低下したり、亢進したりした時に、**health line** に戻してやると、健康になり、経絡を整えるというし、対症療法は、局所の病気で、腰痛、坐骨神経痛、ひじ痛、手根管症候群、肩凝り、膝関節炎を治すことができる。

そこで経絡治療をどうしてもしないといけない病気があり、白内障、緑内障、複視、突発性難聴、耳鳴り、アトピー性皮膚炎、ぜんそく、リュウマチ、糖尿病、風邪ひき、うつ病、不眠症、認知症、本態性高血圧、三叉神経痛、顎関節症、小児慢性中耳炎、小児の水いぼ、夜尿症、などがある。

II、考察

鍼灸治療により、即効果を出せるものは、特効穴と言えるかもしれないが、病気により、徐々に効果が出るものも、特効穴と言えると思います。目の病気では、肝経が関係しておるのですから、百会、魚腰、太陽、攢竹、四白、必須穴で1週間に治療続けさせてのち、眼科に行かせて診察をしていただくとよくなっているのがわかるのである。耳鳴り、突発性難聴は、本人が自覚するから、自然と続けてくるのである。

アトピー性皮膚炎やぜんそく、スギ花粉症、アレルギー性鼻炎、過敏性大腸炎は、腹部に知熱灸をすえてやり、かゆみを止めることで患者さんは、信用してくれるのである。かゆみはヒスタミンが影響しているけれど、抗ヒスタミンも出ており、恒常性保持機能が働いてかゆみが止まり、皮膚の再生能力が働いてきれいになるのである。リュウマチは、自己免疫疾患であるので、腎虚の常症体質ですから、刺激過剰がいけないので、復溜に女性ですと右側に鍼をやさしく補鍼をして、手足膝が豊水状に腫れている関節には補的な散鍼が即痛みが取れますので刺激過剰になることは、疲れるので注意してください。帰ってから2~3日して楽になると言われます。

リュウマチは、ウイルスが体内に侵入して炎症を引き起こすとき免疫の働きが、自己の体に対して攻撃するようになった時、起こるのであり、生体を守る免疫が内乱を起こして人間を苦しめるので自己免疫疾患である。

III、まとめ

特効穴は、病気の症候群に会えば、すぐ効果を出すことができますが、藤本蓮風氏では、1穴手技が、多いので、顎関節症で左の額の痛みを右天枢の置鍼で即取れていました。今後は少数穴で痛みなどの症状が取れるように、会員の先生方のご意見をも拝聴したいのでメールをしてください。(ikedakeij522@yahoo.co.jp)

(文責 池田啓二)

IV、参考文献

- ①石丸昌彦 精神医学特論 放送大学教育振興会 2012年1月
- ②河原和夫 感染症と生体防御 放送大学教育振興会 2011年2月

- ③山本敏男 鍼灸特効穴一発療法 源草社 1999年5月
④藤本蓮風 胃の気の脈診(学法) 森ノ宮医療学園平成14年9月
⑤藤本蓮風 経穴解説 メディカルユーコン 2007年12月
⑥長野潔 鍼灸臨床新治療法の探求 医道の日本社 1998年4月
⑦野口晴哉 整体入門 講談社 1976年7月
⑧代田文誌 鍼灸臨床ノート 医道の日本社 1972年5月
⑨間中喜雄 奇穴図譜 医道の日本社 1972年9月
⑩藤田六朗 圧診点と丘診点 医道の日本社 1960年11月
⑪郡山七二 現代鍼灸治法録 天平出版社 1973年9月
⑫山下良平 経外奇穴考 長生出版 1970年4月
⑬丹波鞆負 アトピーがよくなる本、日本テレビ 2007年12月
⑭福岡伸一 動的平衡 株式会社木楽舎 2009年4月
⑮田城孝雄 健康科学 放送大学教育振興会 2015年3月
⑯鈴木秀郎 慢性関節リュウマチのすべて 南江堂 1975年6月